



2005年 7月～2005年 3月

- ◆ 第37回： 7/27 4年目のワークショップ、はじまる！
- ◆ 第38回： 8/9 建設委員、屋外環境整備に対する想いを語る！
- ◆ 第39回： 8/30 屋外環境整備議論の主題は、ビオトープ！
- ◆ 第40回： 10/13 ビオトープ!! 石樽には必要？不要？どう思います？
- ◆ 第41回： 11/4 屋外環境整備の目玉は、巨大シイの木？!
- ◆ 第42回 11/29 屋外環境整備の新図案登場!
- ◆ 第43回 12/18 大雪でもへっちゃら! 長靴はいて現況調査実施!
- ◆ 第44回 1/21 完成近づく新体育館・プール! 完成式にも乞うご期待!
- ◆ 第45回 2/7 北広場は『芝生?』『アスファルト?』それとも『土のまま?』
- ◆ 第46回 3/5 ついに完成!! 一足お先に見学会!!

第37回ワークショップの概要

2005年 7月 27日 (水) 19:40~21:10
出席者数: 20名 場所: くつろぎの間

19:40 委員長あいさつ
体育館・プールの工事も始まりました。
今年度のワークショップでは、屋外環境整備について話し合うが、校舎の時間様みなどで意見を出し合って進めていきましょう。

19:45 自己紹介 (新メンバー表参照)

19:55 これまでのおさらい・今後の予定
■ 14~16年度: 前回わーくしょっぴだより参照
■ 17年度: 石樽の里委員会設立
石樽の里まつりの様子紹介
新体育館・プールの完成イメージ紹介

■ 17年度の今後の予定
1) 体育館・プール工事見学
校舎の時間様、工事見学を行います。
2) 屋外環境整備計画
古い校舎や体育館・プールの解体後の敷地をどの様に整備するのが良いか計画します。
3) 共育委員会
学校を中心として、子どもたちを育む地域活動を企画・実行します。

20:10 屋外環境整備に関するフリートーク
■ これまでに頂いた意見
・校庭の砂対策
・昔からの門柱を残したい
・既存の井戸を活かしたビオトープ・せせらぎ
・駐車場がたくさん必要 等
■ その他
・旧校舎北側の桜は昔からある思い出の木
北側の道路境界付近は、道路の拡幅も合わせて考える必要がある。
・周囲の石積みは、木造校舎の基礎に使っていた石を再利用したもの
・プールがなくなると、代わりの防火用水を用意する必要がある。
・グラウンドは、授業や運動会等で必要な広さを検討して決める



4年目のワークショップ、はじまる!

今年度のワークショップがついに始まりました。新しいメンバーを加え、また一段とパワーアップした委員数は計34名。そして今回のワークショップは、4年前にみんなが最も望んだともいえる「和室 (くつろぎの間)」で行われました。「学校にゆっくりくつろげる和室がほしい」というみんなの強い思いにより生まれた和室。その畳に座って話す委員の表情は、今まで以上に生き生きとし、全体的に非常にリラックスした雰囲気でした。今年度はこのリラックスした雰囲気の中で、柔軟な発想により、活発な意見交換を行っていききたいと思います。

2005年度建設委員会メンバー

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 委員長
岡 昭行 (育友会歴代会長) | 岡 正一 (育友会会長) |
| 副委員長
梅山英明 (前教育委員) | NEW 寺本芳彦 (育友会副会長) |
| 委員
伊藤文男 (市議会議員) | 諸岡恵理子 (育友会母親代表) |
| 山岡一男 (市議会議員) | NEW 人見 積 (育友会副母親代表) |
| NEW 小坂 優 (自治会長) | NEW 小坂 寛 (育友会書記) |
| NEW 小林昌彦 (自治会長) | NEW 伊藤純子 (育友会計) |
| NEW 門脇敏男 (自治会長) | 小西修市 (石樽小学校 校長) |
| NEW 小林秀夫 (自治会長) | NEW 小林共子 (石樽小学校 教頭) |
| NEW 伊藤敏一 (自治会長) | 小林良典 (教育委員会) |
| 清水一也 (前自治会長) | NEW 多湖篤人 (教育委員会) |
| 伊藤 悟 (前自治会長) | 植野 収 (石本建築事務所) |
| 伊藤 隆 (前自治会長) | 奥井康史 (石本建築事務所) |
| 岡 主幸 (前自治会長) | 岡野俊二 (石本建築事務所) |
| 林 邦明 (学窓会) | 小松 尚 (名古屋大学助教授) |
| 森 清光 (学窓会) | |
| 川内信秀 (育友会歴代会長) | |
| 石岡なが子 (育友会歴代会長) | |
| 西村幸弘 (育友会歴代会長) | |
| 瀬木好博 (育友会歴代会長) | |
| 赤坂佳朗 (育友会歴代会長) | |

計 34名

- ・グラウンドの土の種類の中には、最近では風で飛ばされにくいものもある。
- ・土に限らず、芝も人工芝もあるが、子どもの健康を害するものはよくない。
- ・管理やコストなど長い目でみた検討が必要。
- ・今の強烈な風の向きや強さは、旧校舎を解体すると変わるかもしれない。
- ・現状のグラウンド広さは、ソフトボールや運動会のときに、狭いと感じる。
- ・児童数は横ばいだが、老人数は増えているのでそれを考慮して環境整備を計画する必要あり。

次回までに屋外環境整備に対する想いを考えてくる。(記入用紙配布)

21:00 共育委員会からのお知らせ
・石樽の里まつりの報告・お礼
約100名のボランティアの方々が協力集合写真申し込み案内 (申込書配布)
・8/23、京都にある同様の取組みを行っている学校へ視察予定
・体育館・プール工事のため、北側駐車場から地域玄関へのアプローチが大変。
→西側に現状以上の駐車場を確保するのは困難
・8/21 (日) に育友会・児童の大掃除。工事現場の駐車場を開放願いたい。
→戸田建設さんに相談する。

21:10 閉会

次回ワークショップ 8/9 (火) 19:30~



くつろぎの間で行なう初めてのワークショップ

第38回ワークショップの概要

2005年 8月 9日（火） 19:35～21:30

出席者数：21名 場所：くつろぎの間

19:35 委員長あいさつ

ホテルが今年は見られない。工事で重機が壊しては当然かもしれない。でも、今年のワークショップは屋外環境を創ること。是非、良い環境を創りたい。

19:40 自己紹介

19:45 本日の予定と前回のおさらい

19:50 屋外環境整備に対し、各自“想いを語る”

〈学校から〉

- ・体育用に110mの直線（80m走用）が欲しい。
- ・まだ職員にて協議不十分のため、今後要望出す。

〈各委員から〉

- ・ピオトープ欲しい。
年間通した自然学習の場、鳥箱、蛭、トンボ、最近のカブト虫とりも親の仕事。地域のベンチ。
- ・お山広場を広くとり、グラウンドとの一体感を持たせたい。
- ・遊具をもっと充実させたい。
- ・小学校で子どもが野球をできるようにしてやりたい。夜間照明設備も欲しい。外で遊ぶ機会を少しでも作ってやりたい。元気で遊ぶ姿見たい。
- ・飼育小屋は、中庭では管理が困難なため、屋外環境で造りたい。動物と触れ合う場所欲しい。
- ・丘を作って遊具を作りたい。ローラー滑り台、アスレチック、芝生広場など。
- ・井戸水で池を作り、大きなハスを育てたい。
- ・都会の学校じゃないから、ピオトープは不要。もし作るのであれば、子どもに作らせたい。
- ・間伐材を使用した素朴な遊具が欲しい。
- ・南側に水の流れが欲しい。流れも大小欲しい。
- ・焼いた炭で水の浄化できる設備ほしい。
- ・芝生は除草剤をまくくらいならやめたほうがいい。
- ・管理のし易さを考えるべき。ツリーサークルは草が抜けない。ピオトープはたいへん。管理をボランティアに頼らず、子どもたちが出来るものにした方がいい。



建設委員、屋外環境整備に対する想いを語る！

新校舎の計画時、そして新体育館・プールの計画時もうでしたが、みんなで計画を始めるにあたっては、まず、各自が考えている夢や想いを共有することが大事になります。ですから今回も、これまで同様、屋外環境整備に対する各建設委員の強い想いを語っていただきました。旧校舎と既設体育館・プールの解体後は、校庭用地が今よりずっと広がります。その広い土地をどのように計画するのがいいのか？地域の夢が現実となるよう、他の学校の事例も勉強して、新校舎や新体育館・プールに相應しい屋外環境を考えていきましょう。また、新体育館・プールの建設も本格的に始まりました。



熱心に“想い”を語る建設委員

〈工事が始まった新体育館・プール〉



手前が体育館

奥がプール

- ・既存のサツキ、桜、庭、石像などは残すべき。いろいろな想いがある人がいる。
- ・周囲の道路は車がすれ違える広さにして欲しい。
- ・校舎西側に高木を増やすなど、グラウンドからの防砂対策を施したい。自分が子どもの頃に味わった北風に乗ってくる砂の痛さは、忘れない。
- ・現在のプールに代わる防火水槽が必要。
- ・学校の備品を入れる倉庫が必要では。
- ・グラウンドは水はけの良い土として欲しい。
- ・四季折々の実がなる果樹園が欲しい。
人間まず食べることが大事。
自然への感謝の気持ち薄い。
- ・いつまでも心に残る象徴が欲しい。個人的には桜の木のことが心に残っている。
- ・ケヤキやシイなどでっかい木を植えたい。
- ・自然のままを残すことを考えたほうがいい。
- ・運動を目的として施設を充実したほうがいい。
運動後のシャワー、夏の日陰、冬の風除けなど。

21:05 新体育館・プールの工事報告

〈工事の流れ〉

まず体育館、その後プールの順序で進める。

21:10 共育委員会からの報告とお知らせ

- 民生委員による見学会が行われました。
参加者数 約150名
建設委員、校長、先生それぞれから説明

〈感想〉

- ・校舎がすばらしい・・・60%
- ・地域の取組みすごい・・・30%
- ・これからたいへんですね・・・10%

- 石橋小学校を、お盆に里帰りしている人に公開！
・自治会長より同報無線にて連絡する。

21:15 アスベスト（石綿）に関する報告

- ・石橋小学校既設体育館に石綿が含まれている恐れあり、子どもは現在使用禁止としている。
大人に対しては、承諾の上使用としている。
- ・10月頃から石綿撤去予定。撤去後は使用可。

21:10 閉会

次回ワークショップ 8/30（火）19:30～

第39回ワークショップの概要

2005年 8月 30日（火） 19:35～21:10
出席者数：21名 場所：くつろぎの間

19:35 委員長あいさつ

石樽の里共育委員会で、京都の御所南小学校へ視察に行ってきた。オープンスクール形式だったが、石樽小の方がもっと明るく開放的だった。運動場が狭く、中庭のように感じるほど。改めて石樽の環境の良さを知った。12のサークルがあり、今も生きる伝統工芸を、将来につなぐという目的を持って活動していた。11年の経験があり、組織がしっかりしていた。

19:40 本日の内容と前回のおさらい

（第38回 わーくしょっぴだより参照）
前回テーマの屋外環境整備に関して、建設委員が地域の人から頂いた意見を紹介
・石楠花など石樽の木を植えて防風林作っては？
・校門がどこかわからない。どこで記念写真を撮ってるの？
今後も機会をみて、様々な人から意見集めます！

19:50 屋外環境整備に対する“想い”のまとめと、今後の進め方について



屋外環境整備
議論の主題は、ピオトープ！

前回皆さんに語ってもらった「屋外環境整備に対する想い」をまとめました。その話し合いでは、やはり意見が集中するのが“ピオトープ”。「自然豊かな石樽にピオトープなんて必要ない」という意見と、「以前の石樽とは自然環境が違うので、学校にあるのがいい。」という意見。賛否両論あるこのテーマは、まだまだ話す必要がありそうです。今回は、この“ピオトープ”についてもう少し掘り下げて話しをする予定です。

また、新しい体育館・プールの建設が進むと同時に、旧校舎・体育館・プールの解体時期が近づいています。共育委員会では、「旧校舎お別れ会」を企画しています。新校舎の完成式・石樽の里まつりに続き、今回も地域みんなの協力により、記憶に残るすばらしい会が催されることを期待します。

- く「想い」のまとめについての意見
- ・防犯に対する協議もした方がいい。
 - ・ピオトープに対しては賛否両論。
→石樽は周りにたくさん自然がある。無理に学校に自然を作っても生物は死ぬだけ。
→利用するのは、所詮学校にいる時間帯だけ。
→自然はあるようで、ない。川もガラスの破片などあり、入れない。
→子どもをどこまで近づけるかも、管理上課題。
→ピオトープのイメージが各人により異なる。
 - ・今の子どもはゲームばかり。スポーツ少年団の子は、スポーツとしてやっているだけで、外では遊ばない。習い事等で時間がないのが現状。
 - ・一人ずつが植樹すれば、いずれ防風林になる。
 - ・子どもたちにも提案してもらってはどうか？（小松先生から）
 - ・うまくまとめてある。ただ、何に重点を置くかをもう少し議論しないと、案を作りにくい。
 - ・環境学習の観点で、学校からの要望を聞くべき。
 - ・校庭は全面芝生とした防砂対策もある。
 - ・最初から造りすぎない方がいい。子ども参加で学校活動に絡めると良い。（校長先生から）
 - ・この屋外環境整備による目標を定める必要あり。ただ運動場？ 校外含めて考える？ 家にもってゲームしている子どもたちを引っ張り出す？
 - ・御所南小では、現役の技術者が子どもに伝承し、地域にかえすという目的がある。石樽の子どもにはどうなって欲しい？何を期待する？

く今後の進め方
今回はピオトープなど環境学習についての協議。その中で校長からの問いかけである「目標」についても考えていく。

21:00 新体育館・プールの工事報告
建物を支える基礎の鉄筋を組んでいるところですよ

21:05 共育委員会からのお知らせ
・旧校舎お別れ会のお願い（別紙配布）
実行委員の募集・学校にまつわる古い写真募集
・9/11の校舎一般開放は、選挙のため休み。

21:10 閉会

次回ワークショップ 10/13（木）19：30～

く屋外環境整備に対する想いのまとめ

●活発な活動を支える 元気増進の場

・グラウンド・遊具・芝生広場・お山ひろば

●自然とのふれあいを育む 環境学習の場

・ピオトープ・果樹園・雑木林・エコ

●地域で利用する 憩いと交流の場

・散策路・野外劇場・ジョギングコース・ゲートボール場

●地域に永く愛される 歴史伝承の場

・樹木、庭園の保存・管理しやすさ・記憶に残る・地域貢献
—— その他 ——

・大きすぎないグラウンド・与えすぎない・新技術に注意・壊すことありきでなく利用を再考・子どもたちの参加・薬をまいて芝を管理するのはだめ

く今後の進め方について

●各項目についての意見交換

●事例視察

・ピオトープ・芝生

●敷地調べ

・残すもの調査・広さ確認

2005年9月
校舎お別れ会のお願い
石樽の里共育委員会

新しい校舎ができて9か月、旧校舎を解体して環境整備の事業に入ります。
旧校舎で学んだ方をはじめ、色々な思い出が残る校舎のお別れ会を開催します。多くの方で計画しようと思います。あなたも、ぜひ実行委員会に参加して下さい。参加できない方も、色々な形でご協力をお願いします。
時期は11月末か12月初旬の予定です。

お別れ会実行委員会になって下さい
多くの方の方で旧校舎を開放しようと思います。ぜひ実行委員会に参加して下さい。
下の申し込み書に記入して石樽小学校内「石樽の里共育委員会事務局」まで9月10日までに申し込んで下さい。
なお、青友会本部役員、建設委員、共育委員の方は申し込んでいただく必要はありません。
おながい
学校敷地内でベットの設置を希望する方がいます。「壁しりとり」も開催あります。お申込は子どもの誕生日と希望時期を記入し、郵送でベットの申し込みはしないで下さい。保護者負担です。

学校にまつわる古い写真を貸して下さい
お別れ会に展示しようと思います。また、再来年石樽小学校開校百周年を記念します。百年史を編さん時の資料とさせて頂きたいと思っています。写真は、複写していただくだけで構いません。全写真を展示、掲載できない場合があります。ご了承ください。ご依頼ですが小学校まで届けて下さい。

おながい
学校敷地内でベットの設置を希望する方がいます。「壁しりとり」も開催あります。お申込は子どもの誕生日と希望時期を記入し、郵送でベットの申し込みはしないで下さい。保護者負担です。

実行委員会申し込み書
お名前
住所
電話番号
アイデアがあれば書いて下さい

お別れ会の中学生の皆さん、解体で小学校まで来て下さい。

配布資料
「旧校舎お別れ会のお願い」

第40回ワークショップの概要

2005年 10月 13日 (木) 19:35~21:15

出席者数：25名 場所：くつろぎの間

19:35 委員長あいさつ

建設委員のメンバーが変わりながらも、ついに40回目のワークショップを迎えた。校舎計画もそうであったように、屋外環境整備でも様々な想いを出し合って、出来る限り実現したい。旧校舎のお別れ会の話しも進めています。みなさん協力お願いします。

19:40 本日の内容と前回のおさらい

(第39回 わーくしょっぷだより参照)

19:50 自然とのふれあいを育む環境学習の場について考えよう！

- ・以前に頂いた各委員の意見を振り返りました。
- ・前回の主題となった「ピオトーブ」について、その必要性や効果について確認し、引き続き意見交換を行いました。

自然とのふれあいを育む 環境楽習の場

わーくしょっぷでの意見

基本的な考え方	具体的な計画
季節感を感づける場	
自然の生態を学習できる場	ビオトープ
自然の生態を学習できる場	雑木林
自然の生態を学習できる場	飼育小屋
自然の生態を学習できる場	魚の住むせせらぎ
自然のまよかし	壁の上の手
食への感謝の心を育む	植物の実生から果樹園
自然の生態を学習できる場	古くからの池
身近に生物を感じる場	ビオトープ、観察池
	ビオトープ反対
	灰で水を浄化
エコ	雨水、井水利用
資源(水の)節約	

1. ビオトープとは？

→ドイツ語のbio(生物)とtopos(場所)を組み合わせた造語＝「生き物が暮らせる場所」
特別なものでなく、地域に残っている自然や、音あった自然＝池、小川、雑木林

2. 学校ビオトープの効果

→事例紹介
子どもたちの学習意欲や好奇心を刺激する。
＝生きた理科教材、自然の仕組みや大切さを体験
できる、生き物と触れ合える、地域住民の交流の場
→毎日、月にするのできる自然。

〈ビオトープに対する意見（続編）〉

- ・実際にピオトープの見学に行ったが、管理費が相当かかると聞いた。
- ・北駐車場には、バッタがいっぱいいるし、中庭にはカエルがいっぱいいる。その場所にあった生物が自然に生きている。ピオトープがあれば、いい教材になると思う。
- ・まわりに自然がいっぱいあるのだから、ピオトープなんてつくらず、校外に出掛けて行けばいい。
- ・子どもの意見を聞いて、つくればいい。
- ・ないよりはあった方がいいので、コストがかからないように工夫して簡単なものをつくれればいい。校外へ出掛けるきっかけになればいい。



ビオトープ!!

石樽には必要？不要？どう思います？

前回から引き続き、ピオトーブの話が議論の中心となりました。ピオトーブが学校にある価値や他の学校での実践事例をスライドにて勉強したり、実際にピオトーブを視察に行き、管理やコストの話も含めて調査してきた建設委員から話を聞いたりしました。流行で設けるのではなく、子どもたちや地域にとって本当に価値があるのか、また長く継続管理していけるのかを基本に意見交換しています。石樽小に設ける価値についての意見は様々で、やはり賛否両論の意見があります。両方の意見を尊重し、今すぐに答えを出さずに、あせらずに、もう少し時間をかけながら協議を続けていく方向になりました。

新体育館とプールの工事は、徐々にそのボリュームを現
 してきており、2階分の高さまで上がってきました。体育
 館は天井が高いため、最終的には今よりもう1層分高くな
 る予定です。



右写真) 床コンクリート打設後に作業足場を組んでいるところです。



アリーナ

左写真) 1階部分の鉄筋を組んで、型枠を立て、コンクリートを打つ準備をしているところです

- ・水利権があるので、用水を取り入れるのは困難。
- ・水を得るには、井戸水をくみ上げるしかない。
- ・ピオトープをつくることに矛盾を感じている人は多いと思う。自然を壊して造成して、建造して自然をつくる。メジロやウグイスを呼ぶためでなく、ボウフラ、ヤゴ、アメンボでいい。
- ・人がつくった自然は、人の管理が絶対に必要。
- ・現在の北駐車場をつくるのにたいへんな苦労があった。簡単に内容変更するのは賛成できない。
- ・自然の中で育っても、教えてくれる人がいなければ、鳥の名前すら知ること出来ない。学校に自然があれば、教えてくれる人もいる。
- ・小さな規模のピオトープ事例知りたいし、専門家の話も聞きたい。

(学校から)

- ・子どもがバシャバシャと遊べる水場は欲しいし、現在のせせらぎや池は生かして欲しい。
- ・ビオトープはうまく活かせるか、管理が出来るかに不安がある。
- ・教材を求めて地域に出ていかねばと思っている。
- ・運動場も、北側だけでなく西側にも拡げたい。

(小松先生から)

- ・みんなの言うことはその通りだと思う。
- ・今すぐ結論だす必要ない。遊びの水辺が欲しいなら、まずはそこから始めればいい。少しずつ様子見ながらつくればいい。

⇒今後の継続協議とする

21:00 新体育館・プールの工事報告

- ・1階部分の鉄筋を組んで、型枠を立て、コンクリートを打つ準備をしているところです。

21:05 共育委員会からのお知らせ

- ・旧校舎お別れ会 11/27(日)
昔の写真を集め、学校の歩みを紹介する。
学年毎のブースを設ける予定。卒業生にて実行
委員会開催して協議中。
10/31に第2回実行委員会開催予定

21:10 次回の予定

「地域で利用する憩いと交流の場について」

21:15 閉会

次回ワークショップ 11/4 (木) 19:30~

第41回ワークショップの概要

2005年 11月 4日（金）19:35～21:05

出席者数：17名 場所：くつろぎの間

19:35 委員長あいさつ

今日の新聞で福井の小学校のピオトープと
長野の小学校の学校林が紹介されていた。
石榑小も石榑に相應しい屋外環境を創って
いきたい。

19:40 本日の内容と前回のおさらい

（第40回 わーくしょっぴだより参照）

19:45 地域と利用する憩いと交流について

考えよう！

- ・以前に頂いた各委員の意見を振り返り、他校の事例を紹介しました。



屋外環境整備の目玉は、巨大シイの木？！

校舎計画と同様に、地域利用を想定した屋外環境整備を検討する中で、今回整備の目的を改めて考え直す議論がされました。「遠くに住む高齢者には、学校設備の恩恵を受けないので不公平。税金の無駄使いではないか。」「基本的には、子どもたちの施設。子どもたちにとって良い環境の提供を考えるのが一番重要。」こうした意見は各委員が責任を持って、個々の役割を果たそうとする姿勢が表れたものだと思います。特に公共の施設建設に際し、こうした議論は非常に重要であり、その後の活動にも影響するので十分に協議する必要があります。

また、委員の一人から合成写真を使った提案がありました。旧体育館の跡地に、大きな大きなシイの木を植えるという案です。いつまでも卒業生の記憶に残るのではないのでしょうか。

下）建設委員により作成された、大きなシイの木と小高い山を設けたイメージ写真



BEFORE



AFTER

- ・山が欲しい。雪が降ればソリ遊びが出来るし、登れば、周りを見渡せる。管理もからない。
- ・大人と子どもを繋ぐ接点となるのは『花』だと思う。今の地域花壇よりもっと大きな花壇や世界一大きな花時計（直径10m程度）をつくる等しては。
- ・卒業生が記念植樹していくスペースを設ける。

（学校から）

- ・石榑小は、近隣の学校から注目されている。これだけの施設を造ってもらい、それに応える活動をして、手本となるようにしたい。
- ・近隣の学校には不登校の子どもがいるが、石榑小学校にはいない。地域活動の賜物では。
- ・子どもは座るのが好き。特に座ってはいけなところ…。腰を掛けられる所が多いといい。
- ・水辺はほしい。桜は人を呼ぶ力を持っている。

20:50 新体育館・プールの工事及び旧校舎解体報告

- ・現在、2階のコンクリート打設用型枠を施工中。
- ・旧校舎等の解体スケジュールのお知らせ。



20:55 石榑の里共育委員会からのお知らせ

- ・「『校舎お別れ会』開催のお知らせ」を配布。
- ・10/31（月）に第2回実行委員会を開催。
- ・11/16（水）に第3回実行委員会開催予定。

21:05 次回の予定

「活発な活動を支える
元気増進の場」について

21:10 閉会

次回ワークショップ 11/29（火）19:30～

地域で利用する 憩いと交流の場

わーくしょっぴでの意見

基本的な考え方	具体的な計画
地域の人の憩いの場	ベンチ・散策路
放課後・運動場で元気に遊ぶ子どもたちの姿を見る	照明のあるジョギングコース

● 地域利用の事例

- ・地域花壇
- ・ベンチ
- ・散策路
- ・登り窯
- ・屋外ステージ、観覧席
- ・ピオトープ
- ・地域農園

〈意見〉

- ・遠くの自治会からは学校に来れない。一部の地域の人しか利用できないのに、立派に整備するのは税金の無駄使いだ。
- ・子どもたちが過ごしやすい環境を創ることが、一番の目的。子どもを主体に計画するべき。
- ・中学生もよく学校に立ち寄っている。安心できる場所が学区には必要。
- ・現在、育友会の農園があるが、離れたところにあるので、敷地の内部にあるといい。
- ・子どもだけのものでなく、誰でも来れる環境があるといい。
- ・子どもが学校を卒業すると、学校と疎遠になってしまい、さみしい。
- ・屋外環境で、地域が利用する施設はあまりない。
- ・地域の人が、気軽に立ち寄れる場があればよい。
- ・大きな大きなシイの木が欲しい。30年、50年経った後にも思い出となって残る。
- ・風が強いので、防風・防砂の意味で西側に樹木を植える。



第42回ワークショップの概要

2005年 11月 29日（火） 19:35～21:35

出席者数：22名 場所：くつろぎの間

19:35 委員長あいさつ

旧校舍のお別れ会お疲れ様でした。
「学校来てもいいのかな？」と地域の人が言っているのを聞いて、まだまだ広報が足りないなと感じた。

19:40 本日の内容と前回のおさらい

（第41回 わーくしょっぴだより参照）

19:45 活発な活動を支える元気増進の場について考えよう！

以前に出し合った各委員の意見を振り返り、それらの意見を反映した提案内容について、模型を使った説明があり、その案に対して意見を出しました。



説明に利用された模型

◇基本的な考え方◇
何か特別なものを新たに設けるのではなく、現状を活かして木の植え方、土の盛り方等で工夫する。

〈意見〉

- ・今の校庭の土はどんなものが使われているの？
→緑色で粒子が大きく比較的飛びにくい土を入れている。（校庭舗装仕様別の比較説明あり）
- ・風で飛ばない土はない。
- ・補助金を受けるにあたり、利用上の制約はあるのですか？
→仕様においてはメニューがあるが、利用上の制約条件はない。
- ・子どもたちが自由に走り回れる緑の平場を設けてあげたい。
- ・校庭を一部緑化するにあたりクローバーが提案されたが、芝生同様にクローバーの管理も大変。土質、病気等課題が多く、無理だと思う。
- ・人工的につくった自然は、絶対に管理がかかる。せせらぎにしても、砂が流れて、処理に困る。
- ・現状でも草刈りが大変なのに、これ以上緑を増やすのは気が重い。



屋外環境整備の新図案登場！ 方向性見えた！でも、課題も多し！

これまで4つのテーマを掲げ、話し合いを進めてきましたが、ついに今までの意見をまとめた新たな提案が登場して、大きな方向性が定まりました。基本的な考え方は、「特別なものを新たに設けず、現状を活かして再整備する」です。先輩方が造った今までの歴史を残しながら、必要なものを工夫して設けていきます。ただし、緑化の手法、校庭の舗装、ピオトープの必要性など課題は多く残っています。特に管理面に関する課題が多く、地域の一員としては今後それらを一ずつ解決していかなければなりません。



新しい屋外環境の提案図面：
西側にお山広場やシンボルツリー、散策路などが配されている。



散策路のイメージ

クローバーのお山広場のイメージ



- ・最初から全部造るのではなく、少しずついい。
- ・現状は地域の手造りでつくったもの。石神はそういう町。今後も先生まかせでなく、地域で何とかしていくべき。
- ・道路境界には、飛び出しを考えてフェンスを設けたい。
- ・生垣は隙間から子どもが飛び出すので良くない。
- ・西側の生垣は残したい。
- ・新校舎の中庭の実績から、高低差を利用した遊具を子どもたちは喜ぶ。
- ・歴史は残していきたい。二宮金次郎像の廻りはそのまま残したい。
- ・基本的には今回の提案内容でいいと思う。
- ・現状の木は全部残すの？
- ・現状は自然淘汰されて生き残ったもの。現状の管理で成り立っている。

→公開ワークショップで、みんなで現状を見て歩き、残したいものを見極める。現状が出发点！

21:20 新体育館・プールの工事及び旧校舍解体報告

新体育館：大屋根の鉄骨梁が架かりました。
旧校舍解体：お別れ会の翌日から備品搬出を始めています。

21:25 石神の里共育委員会からのお知らせ

・旧校舍お別れ会の反省会の内容確認

21:30 次回の予定

セミ公開ワークショップ

- ・新体育館・プール工事現場見学会
 - ・現状の屋外環境を見て回り、残すものを見つけ！
- ※セミ公開ワークショップの広報は、旧校舍お別れ会の実行委員会メンバー程度

21:35 閉会

次回ワークショップ 12/18（日） 14:00～

セミ公開

第43回ワークショップの概要

2005年 12月 18日 (火) 14:15~16:40

出席者数：22名 場所：くつろぎの間

14:15 委員長あいさつ

今回はより多くの方から意見を頂きたい趣旨で、旧校舍お別れ会のメンバーにも参加してもらっています。大雪のため、出席者は少なめですが、よろしくお願いします。

本日の内容

大雪のため、予定していた新体育館・プールの工事現場見学は中止します。

前回のおさらい

(第42回 わーくしょっぷだより参照)

14:20 新体育館・プールの説明

見学は出来ませんでしたが、イメージスケッチと平面図により計画内容を振り返りました。



14:50 現状の屋外環境から歴史伝承を考える

3つのグループに分かれ、現状の屋外環境を見て歩き、残すべきものを探しました。



旧小学校の門柱



旧中学校の門柱

〈A班の意見〉

- ・旧校舍北側の3箇所の植込みは残したい。
- ・二宮金次郎像とその植込みは残したい。
- ・プールの東側の高木も残せるといい。
- ・サザンカの生垣は残したい。
- ・南道路側の高木は、全て無くしてもいいと思う。
- ・芝生は管理に手がかかるので土のままがいい。
- ・高木も管理たいへんなので、記念樹的なもの意外は無くしてしまった方がいい。



大雪でもへっちゃら！ 長靴はいて現況調査実施！

近年まれに見る師走半ばの大雪にみまわれ、予定していた新体育館・プールの工事現場見学は、中止となりました。しかし、もうひとつの予定であった「現状の屋外環境を見て回り、残すものを見つけよう！」は、全員一致の熱い思いで、吹雪を伴う雪の中、実施されました。

今までずっとそこにあったものでも、改めて見ると、新しい発見があったり、昔を知る年配の委員からは、様々な歴史や由来を聞くことが出来ました。若い委員からは、前校舎に対する思い入れや、樹木の子どもの時に見た時との高さの違いの話が聞けるなど、各世代ごとに異なる様々な思い出が詰まった屋外環境であることを改めて感じることが出来ました。



雪の中、現況を視察する委員たち



グループ毎に提案を発表する様子
〈B班の意見〉(A班と同意見は省略)

- ・南道路に面した2箇所の門柱は残したい。
- ・南道路に面したイチョウは、今年、紅葉がとてもきれいだった。出来るものなら残したい。
- ・せせらぎを流すために、南側の植込みの根を傷めるのはいや。
- ・旧校舎の名残として、校舎四隅に何か残したい。

「ここに校舎があったんだ！」と言える証。

〈C班の意見〉(A・B班と同意見は省略)

- ・南道路に歩道を整備すると、南側のサザンカは、一部ダメになってしまう。

〈その他の意見〉

- ・南側のイチョウは、足元の石垣を造る前からあったもの。残した方がいい。地元の人は悲しむ。
- ・サザンカは少し低くして残した方がいい。
- ・旧校舎南側の寄贈石は立派なもの。利用すべき。
- ・北側の桜は残してほしいと言われている。
- ・外周を歩けるようにして欲しい。固い舗装は足に負担がかかる。年寄りや散歩に来て、子どもと一緒に帰れる。子どもにとってもいい。
- ・家が遠い人は来れない。
→公園まで車で行って歩いている人多い。
- ・子どもを守る家、現在45軒。まだ手薄な地域ある。
- ・地域の人の散歩は今すぐ始められる。周辺の町では、下校時間に合わせて散歩してもらってる。

16:30 石樽の里共育委員会からのお知らせ

新体育館・プールの完成式を検討中。

- ・日本リーグ所属のデンソーバレー部を招待
- ・もち投げ・防犯に関する講演 など

16:37 次回の予定

- ・(今度こそ)新体育館・プール工事現場見学会！

次回ワークショップ 1/21 (土)

※今日特別に来て頂いたお別れ会メンバーは、今後も参加していただくことになりました。

16:40 閉会

第44回ワークショップの概要

2006年 1月 21日（土） 14:10～17:00

出席者数：21名 場所：くつろぎの間

14:10 委員長あいさつ

旧年中はご意見ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いします。

今回は雪の中で外を歩いていただきご苦労様でした。工事の見学は中止でしたが、今日改めてお願いします。

14:15 本日の内容・前回のおさらい

（第43回 わーくしょっぴだより参照）

14:20 新体育館・プールの計画内容説明

工事見学にあたり、前回同様、平面図とイメージ図にて計画の説明を行いました。

14:25 新体育館・プールの工事見学

工事現場の中は危険なため、仮囲いの外からの見学でした。1階の地域玄関前から、2階の低学年ワークスペースから、そして屋根の上からと、それぞれ新校舎からの見学でした。

〈見学を終えて質問・意見〉

- ・石綿に変わる材料は？
- 断熱としては、ウタ、ポリスリ、断熱ボードなど
- 耐火としては、ロックウールなど
- ・いっけ広場が狭いように感じる。
- 確かに広くはないが、現在は仮囲いがあるため実際より狭く感じる。校舎との間隔は10mです。
- ・入学式や卒業式で利用するひな壇はあるの？
- ステージ下に収納されています。
- ・完成式前にもう一度見学会を行いたい。



完成近づく新体育館・プール！ 完成式にもどうぞ期待！

前回は大雪のため、予定していた工事見学会が中止となりましたが、今回は寒いながらも、雪や雨に見舞われることなく、無事行うことが出来ました。

工事現場内は、まだ足場が多く危険も多いため、少し残念ではありますが、工事用仮囲いの外からのみの見学となりました。外観は近くを通ればいつも見れる状態であるのに対し、プールは上からしか見えないためか、プールの工事の様子を興味深くみる委員が多かったように思います。

また、新校舎の時と同様、ここでの盛大な完成式が期待されます。



工事見学を終え、和やかな雰囲気で行われるワークショップの様子

15:20 屋外環境整備計画の説明

- ・屋外環境をゾーン毎に分割し、北・西・南の緑地の特徴を明確化しました。
- 北緑地ゾーン：記憶の庭に面する多目的広場
- 西緑地ゾーン：変化に富んだ遊びの広場
- 南緑地ゾーン：現在の風景を守る高木の緑地

〈質問・意見〉

- ・今までプールを防火用水として利用してた。これからはどうなるの？
- 旧ガソリンスタンド付近の水槽の代わりは、校舎南側にあり、新プールも防火用水として利用できるように消防と協議済。
- ・防災用に屋外照明は設置されるのですか？
- 夜間の保安用の外灯は設けますが、非常時には非常用の発電機を利用し対応します。

〈ビオトープについて〉

- ・手造りで行えば、お金もさほどかからないし、出来たものを子どもに与えるよりいい。
- ・1から手造りでは完成しないのでは？
- ・既存の井戸を使うなら、水量の確認が必要。
- ・池の底のごみや泥の掃除が必要で、長期的に継続するのは困難。

ビオトープに限らず、樹木など敷地全体の管理を考える必要があるが、校舎で手いっぱいの現状から、ビオトープづくりは様子を見る。

16:35 石橋の里共育委員会からのお知らせ

1/20に事務局会を行いました。

- ・17年度の反省会
- ・18年度に向けて

新体育館・プールの完成式は、建設事業の一環として、共育委員会ではなく、建設委員会で進める。

完成式の日程：3/12（日）

16:50 工事予算について

- ・工事予算は未確定ですが、十分な予算が確保できない場合、今計画しているもの全ての実現は出来ない。優先順位をつけて予算の中で対応する。

16:55 次回の予定

- ・計画案のまとめ！

次回ワークショップ 2/7（火）

17:00 閉会



新校舎の屋上に上がり、新体育館・プールの工事の様子を確認する委員たち

第45回ワークショップの概要

2006年 2月 7日 (火) 19:35~21:45

出席者数：20名 場所：くつろぎの間

19:35 委員長あいさつ

校長あいさつ

2/4の学習発表会が最後の体育館利用でした。子どもたちのいい姿が見れたし、いい思い出を残したと思う。新しい体育館を早く利用したい。

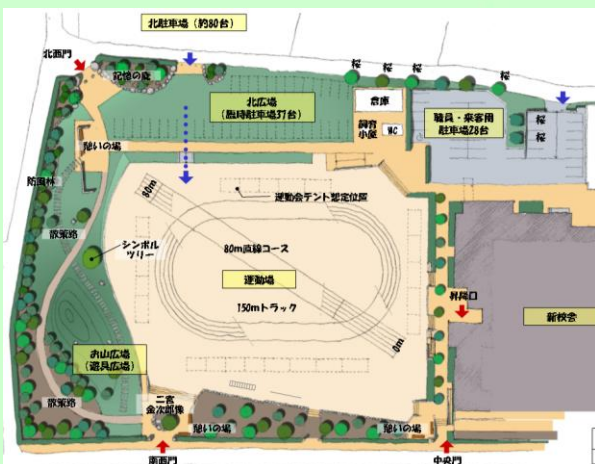
19:40 本日の内容・前回のおさらい

(第44回 わーくしょっぴだより参照)

19:45 屋外環境整備の計画内容について

〈報告・説明〉

- ・職員駐車場部分は、今年度工事でつくる事になりました。
- ・グラウンドへの車両乗入れルートを設けます。
- ・臨時Pと職員Pの車両連絡はなしとします。
- ・北側道路の拡幅により、桜を失うことは、やむを得ない。その際に別の桜を新たに植えられる場所を確保しておく。場所は北側にこだわらず、自由に伸びられる場所がいい。
- ・競技用砂場は、先生と協議して設けます。
- ・グラウンド面積は現状約3500㎡に対し、約5500㎡になります。
- ・グラウンドの排水は周囲に側溝を設け、北東角に集めます。



具体化が進む屋外環境の計画図



北広場は『芝生？』『アスファルト？』 それとも『土のまま？』

いままでも何度となく話し合われてきた「北広場」ですが、「子どもたちにとっての環境」と「管理のし易さ」を考えたときに両方を満足する回答がなかなか見出せていません。今回もこの議題に多くの時間を費やしましたが、『草地』『アスファルト』『土のまま』で意見はばらつき、『決めかねる』がまだもっとも多い状況でした。今後これについては、学校の先生方からの意見をもっと集めて方向性を探ることになりました。

また、完成まで1ヶ月と迫った新体育館・プールは、完成式の準備が着々と進んでいます。またひとつ加わる地域交流の場の誕生を、新校舎の時と同様、地域みんなで参加し、祝い、盛り上げましょう。



ほぼ完成した体育館の外観（北東面）



ヒノキ材で仕上げられたステージ正面



校舎に近接するプール

21:10 体育館・プール工事報告

21:15 石樽の里共育委員会から

- ・完成式の内容案の紹介。（配布資料あり）
- ・完成式の日程確認 ⇒ 3/12（日）

21:40 次回の予定

今回は完成式の詳細決定のため、管理運営委員会との拡大委員会とします。

21:45 閉会

次回 拡大委員会

2/14（火）

最近すっかり定着した、車座形式での話し合い

第46回ワークショップの概要

2006年 3月 5日 (日) 10:00~11:55

出席者数：39名

場 所：石榑ギャラリー・新体育館・プール

10:00 石榑の里共育委員長あいさつ

新体育館・プールの工事は石榑の悪天候の中で苦
労されたことと思います。今日は初めて内部を見
せていただくということでよろしくお願いします。

10:05 完成式のタイムテーブル説明

- ・配布資料により説明
- 9:45~12:30を予定
- ・名古屋大学の学生による企画を説明

10:10 新体育館・プールの見学

〈報告・説明〉

- ・職員駐車場部分は、今年度工事で作る事になりました。
- ・グラウンドへの車両乗入れルートを設けます。
- ・臨時Pと職員Pの車両連絡はなしとします。
- ・北側道路の拡幅により、桜を失うことは、やむを得ない。その際に別の桜を新たに植えられる場所を確保しておく。場所は北側にこだわらず、自由に伸びられる場所がいい。
- ・競技用砂場は、先生と協議して設けます。
- ・グラウンド面積は現状約3500㎡に対し、約5500㎡になります。
- ・グラウンドの排水は周囲に側溝を設け、北東角に集めます。



いっけ広場はまだ未完成でした



プールサイドの緑と黄色が鮮やか



竜ヶ岳を背にしたプールの景観は最高



ついに完成!! 一足お先に見学会!!

ついにこの時がやってきました。待ちわびた新体育館・プールの見学会です。前に外観の見学会は行いましたが、内部に入れるのは初めてとあって、みんなドキドキ・ワクワクしていたようです。今回は建設委員に加え、教職員・PTA役員も加えて行われました。

2階の連絡通路から入ると、まず飛び込んできたのが色鮮やかなプール。石榑の自然を背景にしたその姿は本当に素晴らしいものでした。アリーナに入ると、自然光に包まれた明るさ、高い天井そしてぬくもりのある木の内装がとても印象的でした。壁の形状や仕様は音響的な配慮によるもので、マイクの声や音楽もとても聞き取りやすい環境が実現されているようです。



今回は石榑ギャラリーで行われました



とても明るいアリーナです

11:40 見学を終えた感想

- ・明るくすばらしい体育館ができたと思う。

11:50 校長のあいさつ

20日の卒業式を新しい体育館で行えることをうれしく思う。いっけ広場から、地域の人が見えてくれることを想像している。完成式ではたくさんの地域の人を巻き込んで行いたい。

21:40 次回の予定

完成式準備	3/11 (土)
完成式	3/12 (日)
次回ワークショップ	3/22 (水)

21:45 閉会



玄関ホールもゆったりしています



2階からアリーナを一望できます



壁面の凸凹は音響効果を高めるため



南側はいっけ広場と連続する大きな窓



ステージの後ろに大きな窓があります



ステージ下部に収納されているひな壇